

芸術科

主任：尾藤 祐紀子

(1) 今年度の目標

- 1年：基本的な理論や基礎的な表現技術の定着を図り、自分の視野を広げていくとともに心豊かな生活の創造に芸術を生かせるような態度を育む。
- 2年：1年次に培った基礎的表現力の上にさらに創意工夫・応用して自己の表現能力を高めてレベルアップした幅広い表現活動ができるようにし、生活の中で芸術を楽しませる。

(2) 主な取り組みの計画

- ①中学校での学習内容の把握と復習をして、表現の基礎・基本となる理論や技術を的確に指導する。
- ②年度末の『学習成果発表会』に向けて、段階的な到達点を各自（グループ）で設定して計画的に取り組ませることで、自主的な計画性を育成するとともに、創る喜びと発表する達成感を味わわせる。
- ③個別指導に重点を置き、個性の把握と理解に努め、個々に合わせたきめ細かい指導を心がける。

(3) 授業アンケートの結果と分析

<音楽>

ほとんどの生徒が意欲的に取り組んでいる。基本的な奏法は、ほぼ習得しているが、表現の工夫が苦手な生徒がいる。発表会に向けての姿勢、取り組みはとても前向きである。

<美術>

全体的に意欲的な解答が多いが、進度を早く感じる生徒もいる。学習成果発表会を意識して、大きな作品を制作しているが、学習内容を深めるためにも作品のサイズや発表点数を検討する必要がある。

<書道>

授業については、ここ数年同様に概ね肯定的で好印象の回答がほとんどである。素直に取り組む生徒が増加しているが、理解面では、用語に分かりづらさを感じている者も少しずつ増えているのが現状である。

(4) 今年度の成果と課題

<音楽>

発表会に向けて、積極的に取り組むことができている。授業時数が少ないので、計画的に仕上げていくこと、本番のイメージを持って練習をすることを重視した結果、よりよい音楽にしていくためには、難しい課題にチャレンジすることや、できるまで反復練習を繰り返すことなどを避けては通れないことも理解できるようになった。本番の演奏がどのようなものになるのか、それをどう今後につなげていくのかを考えさせることが課題である。

<美術>

1年生は制作意欲が旺盛な生徒が多く、落ち着いた雰囲気、密度ある作品に繋がっている。この雰囲気を継続させることが望ましい。2年生は自由制作に入ってから、つくりたい理想と現実のギャップに葛藤しながら励んでいる。やや計画性に欠け、本来の力を発揮できてない生徒もいるが、新しい技法にチャレンジして、発見する喜びを感じる生徒も多い。制作内容については、個々の主体性を大切にしたいが、限られた時間の中で、より充実した作品を完成させるため、分野ごとにグループ作り、進度の確認、制作過程の共有を図る等の改善を、来年度に向け検討する。

<書道>

授業の最初に本時の目標や流れを説明して、各自が時間配分や方法を考えて意欲を喚起できる指導を心がけてきたが、素直に乗って取り組めるものとそうではないものがあった、すべてには難しいところがあった。地道な活動でも1時間の中でのメリハリのついた指導を心掛けている。

授業評価の少数の声に耳を傾けて、さらに生徒が達成感を感じられるような授業にすることが課題である。